

学校経営のポイント

“社会科調査”(小6対象)結果と夏休み

若井 彌一

平成 19 年 2 月に実施した小学校 6 年生を対象とする「社会」科の調査結果が国立教育政策研究所より公表された。6 月 28 日の『読売新聞』は、「全国の小 6 調査 明治の偉人『わからない』」という見出しで報じている。

調査結果が示唆するもの

同紙は、「小学校の学習指導要領で例示した歴史上の人物 42 人について名前と業績が一致するかどうか、文部科学省・国立教育政策研究所が全国の小学 6 年生に調査した結果、卑弥呼、ザビエル、ペリーなどは正答率が 90% を超えたものの、『幕末から明治の偉人』のほとんどが 50% 以下だったことがわかった」と解説している。

小学校 6 年生 6,665 人を対象にした調査だということであるが、この調査結果では、「幕末から明治の偉人」についての正答率は、大久保利通が 23.5%、木戸孝允が 25.4%、大隈重信が 28.7%、小村寿太郎が 33.8%、明治天皇が 37.8% であった。

卑弥呼、ザビエル、ペリー、野口英世、雪舟については、順に 99.0、97.7、95.1、91.7、90.1 というように、きわめて高い正答率となっているのに比べて、これら「幕末から明治の偉人」についての正答率は、大方の予想以上に低率にとどまっていると思われる。

この結果を見て、ただちに、小学校における「社会」科の指導の仕方が適切であるか否かを論ずることは短絡的であり、適切ではなからう。ただ、このように、極端に正答率の高い人物と正答率の低い人物とに分かれる結果になったことが、児童の興味と

の関連性はどうなのかについては、ぜひとも知りたい気がする。

自己学習力を強化する夏休みに

限られた紙幅なので、詳細に及んでの説明や考察ができないことをご了解願う(調査結果の詳細については、国立教育政策研究所のホームページをご覧ください)。

一般論としてではあるが、人は興味あることについて、どんどん理解を広め、また、深めていく。反対に、興味のないことについては、ある程度のところでストップしてしまう。「好きこそものの上手なれ」は、その意味で至言である。

ところで、もう間もなく夏休みを迎えようとしている。学校での学習から解放されるのは、多くの児童・生徒の楽しみに違いない。しかし、休みになっても、児童・生徒が強く興味をもっていることについては、自発的に学習(家庭での自己学習)していく可能性が高い。

多くの宿題を出してきつく縛るのではなく、むしろ、児童・生徒の興味あることについて学習を進めることを奨励してみてもどうか。夏休みに自己学習力をつける(強化する)ことができれば、その効果は夏休み以降の学校学習にもプラスに作用すると予想される。

児童・生徒が、夏休みを、自分の興味に基づいて調べものをしたり、観察したり、工作したりすることの充実感を味わってみる好機として活用し自己学習力をつけるよう、指導したい。

(わかい・やいち = 上越教育大学大学院教授・附属図書館長)

●好評発売中! ●4月から実施「指導改善研修」、免許更新制導入等へ万全の対応を! 教育開発研究所

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著 A5判 370頁 定価 3570円

■最新刊!

教職研修編集部【編】

B5判・定価 2,100円

教育開発研究所

新学習指導要領、中教審答申、改正法、通知等 34 重要資料と「教職研修資料」最近の既刊号を収録!

『教職研修Data '07-'08 重要教育資料』

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください(24 時間受付・即日発送)